

地域再生計画（污水処理施設整備交付金）事後評価調査

都道府県名	神奈川県	事業実施主体	平塚市	地域再生計画名（計画期間）	〔2期〕未来へつなぐ豊かな自然と快適環境（平成24年度～平成27年度）
-------	------	--------	-----	---------------	-------------------------------------

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値	2期計画目標値（最終）			事後評価	達成状況に関する評価	
			基準年度	年度	最終実績			
指標 1	污水処理施設の整備の促進	49.0%	H18	75.0%	H27	76.1%	○	地元役員をはじめとする地域住民の理解・協力や污水処理施設整備交付金の活用により農業集落排水施設の効率的な整備ができ、目標値を上回る結果となりました。
指標 2	里山再生の活動の活性化	17,812㎡	H17	50,000㎡	H27	37,975㎡	×	活動面積は当初の2倍以上となったものの、里山再生活動に取り組む土地の面積の拡大については、里山保全団体と地権者との合意が必要であるとともに、当該団体の会員数の規模により活動範囲に限界があることから、目標値を達成することができませんでした。

②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1								
------------------------------	------	--	--	--	--	--	--	--	--

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）		事業の進捗状況に関する評価
		計画	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	農業集落排水事業	“農業集落排水施設L=10,370m 資源循環施設1箇所”	“農業集落排水施設L=9,920m 資源循環施設1箇所”	区域内における農業集落排水施設の計画的な整備により、公共水域の水質の改善を通じて、豊かな生態系の保全・再生がされるとともに、生活環境の改善を図ることができました。今後、更なる水環境の向上のために早期の接続を図ります。
	個人設置型浄化槽整備事業	12基	1基	市の要綱改正に伴い新設の浄化槽が補助対象から外れたため計画基数を減らしましたが、目標基数に達しませんでした。農業集落排水に接続できない家屋の単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換が1期計画でほぼ転換し終わってしまったこと、また、合併処理浄化槽への設置替えは一定の経済負担が必要になることから、単独処理浄化槽本体の損傷や住宅のリフォームなどの事由がないと行われないことなどが原因と考えられます。なお、啓発活動の一環として、平成27年度に市内浄化槽保守点検業者に制度周知を行いました。今後も引き続き広報啓発を行い、浄化槽の整備を進めていきます。
その他の事業	里山再生の活動	大学交流事業を年3回、モデル事業を年7回実施した。市民協働事業で団体に対し負担金の交付を行いました。		活動面積は目標値に届かない結果となりましたが、市民大学交流事業やモデル事業の実施により、市民参加による継続的な活動を通じて、環境保全に対する意識の向上に繋がっていると考えます。今後も引き続き市民参加による里山保全・再生活動を実施します。
	不動川整備促進事業	不動川の整備を河川管理者である神奈川県への働きかけをしました。		不動川の整備が一部されたことにより、浸水などの被害を軽減し、生活環境の安全の確保を図ることができました。今後も、働きかけを継続していきます。
	畜産環境対策促進事業	家畜排せつ物処理利用施設の整備、改修等に係る経費を対象とした「平塚市畜産環境対策保全事業補助金」を交付しました。		申請があった事業に対して、適切な補助を行いました。今後も、周知等を徹底し、家畜排せつ物処理利用施設の適正な維持管理を推進していきます。
計画外で独自に実施した事業				

⑥計画全体の総合評価（最終）	污水処理施設の普及や家畜排せつ物処理利用施設及び河川の整備を促すことにより、農村地域の基礎的な生活環境の向上を図っています。また、汚泥を堆肥化して、農地還元を行うことで、農業の特質を生かした環境への付加の少ない循環型社会の構築をすることができました。里山再生の活動の活性化については、市民参加による保全活動が継続的に行われるとともに活動回数や活動内容の充実を図りましたが、活動面積は目標に届きませんでした。しかしながら、里山再生の活動にまちなかの市民が参加することで、環境保全の意識の向上と農村地域との交流を促進されるとともに、交流人口や定住人口の増加が見込まれます。
----------------	--

⑦今後の方針等	<ol style="list-style-type: none"> 個人の浄化槽の整備については、機会を捉えて引き続き広報・啓発を行うとともに、家畜排せつ物処理利用施設の適正な維持管理や農業集落排水施設への接続を推進することで、水質の改善を図ります。 河川の整備については、地域住民の意見を踏まえるとともに、県に対して整備の働きかけを継続していきます。 里山再生の活動については、現状の活動面積を維持するとともに、保全活動にまちなかの市民参加を促進するなど活動内容を更に充実させることで、活性化を図ります。 <p>以上3点の活動を通じて、農村地域の生活環境の向上を図るとともに、豊かな自然を未来へ引き継げるよう取り組んでいきます。</p>
---------	---